

おおふな

2024年3月5日 No.23

発行者:小林 洋一 編集:情宣部

J R 東 労 組

大 船 支 部

大船支部第27回定期委員会開催！！



2024年3月2日(土)、玉縄学習センターにて大船支部第27回定期委員会を開催し、スローガン、運動方針を含め参加した全組合員で2024JR総連春闘勝利、過半数代表者選挙勝利、そして組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認しました。

主な発言内容

【2024春闘について】

●私たちは間違った要求はしていない。定昇カット分含め満額回答すべき●賃上げと夏季手当が当時議論。望んでいる人などいない。会社の希望が無理矢理通っている。

【情勢について】

●沖縄研修に参加。現地に立つことの重要性を感じた。辺野古新基地、いらぬ基地を無理な工事で作ろうとしている。矛盾を感じた

【安全問題について】

●必要なことはタブレットで教育。技術継承などもはや存在していない●大きな事故を起こさないためにも、組織強化・拡大が重要●同じ月に何度もイベントをやっている。その状態で安全に作業できるとは思えない。

【過半数代表者選挙について】

●私鉄各社では36の条件がJR東日本よりも悪い会社が多い。過半数代表者選挙勝利が重要。過半数勝利をめざす●組織拡大を進め過半数を超えれば選挙の必要も無くなる。そこをめざしていく●代表者選挙には敗北したが、在籍組合員の倍近くの票が入った●経団連が打ち出した労働法制の見直しは労働組合潰した。実現されれば労働環境はさらに悪くなっていく。

【会社について】

●大宮運転区での不当処分・不当転勤は前代未聞、今までなら考えられないことだ●現認もしていない。後出しの指示違反。弱い立場である社員への押し付けだ●東労組組合員の管理者登用が重要。処分撤回を求める●突発休が出た際に、管理者が見習いなしで業務に就いていた●辞めていく若手が多い。見切りつけられている●入社した時は良い会社だと思った。20年経って、子どもの就職先にJR東日本を勧められない●休出が増えゆとりが削られていく。それが当たり前になるのが怖い●ある職場では「のもの」に力を入れている。業者によっては駅員が準備・販売・片づけまで担っている。管理者ですら文句を言っている●「のもの」の売り上げのうち、JR東日本商事に8%、駅には2%が入る。どう考えても赤字●「何で改札に駅員がいなくて『のもの』に駅員がいるのか」とお客さまからクレームを受けたこともある●不当労働行為を受けた。心は揺らいだが、このようなことが広まってはいけないと思い、当時の分会長に相談。交渉も行ってきた●千葉地本が行った交渉で会社は不当労働行為について「限りなく黒に近いグレー」と答えた。こうした姿勢を許していけば、ますます真っ黒になっていく●休出が当たり前になっていき、自分たちも飼いやられていくのではと感じる。おかしいことにはおかしいと声をあげるべき

【東労組運動について】

●12月に初めて組合員同士の懇親会を開催。会社への不満話で盛り上がった。今後も歓送迎会を計画していきたい●当たり前のことを当たり前に出していく●年末手当では職集を開催し、組合員の率直な声を出してきた。●歯止めをかけるのは東労組。だが今その組織力が問われている●組織強化・拡大は最重要課題。だがまだ拡大が職場では実現できていない。横浜駅分会の教訓を学び、分会総体で実践していく●異動で来たが知っている人がいなくて不安だった。しかし組合掲示板に歓迎の掲示が出て嬉しかった

働く者を大切にしない会社姿勢に立ち向かい、24春闘勝利に向け全組合員でたたかい抜こう！！